

独立行政法人地域医療機能推進機構相模野病院 第9回地域連絡協議会 議事概要

令和元年7月18日(木)	13:30~14:30	相模野病院7階 講堂
会議の招集者	相模野病院長 野田吉和	
会議の種類	第9回 相模野病院地域連絡協議会	
司会者	相模野病院 事務部長 菊地功	
書記	相模野病院 総務企画課 菊池紀子	
地域委員出席者	相模原市医師会長 細田稔様、相模原市病院協会会長 土屋敦様 相模原市薬剤師副会長 山下耕司様、相模原市健康福祉局保健所長 鈴木仁一様、 相模原市健康福祉局福祉部長 網本淳様、相模原市消防局副消防局長 小松幸平様、 相模原市中央地区自治会連合会長 牛尾良一様、市民代表 小野弘様 相模原市大野北地区自治会連合会長 山口信郎様、患者代表 高倉正男様	
病院側出席者	院長 野田吉和、副院長 今崎貴生、事務部長 菊地功(司会) 看護部長 横井弥生、副看護部長 岡野礼子、訪問看護ステーション所長 石川由美、 医事課長 齊藤篤志	
地域委員欠席者	相模原市歯科医師会副会長 寺崎浩也様、相模原市薬剤師会長 小川護様、 相模原市社会福祉協議会長 戸塚英明様、	
病院側欠席者	副院長 今泉弘、主任医療相談員 長塚裕二	

1. 開会挨拶 野田院長

当院の地域医療に対する基本方針は、厚労省政策としての地域包括ケアシステムの実現に向けて、病診連携を強化したいと願っています。地域の住民の皆様には近隣のクリニックにかかりつけ医を持っていただき、当院では精査加療目的に入院加療等を行い、安定したのちはまたかかりつけ医で継続診療を行っていただく、これが病診連携の理想的な形と考えています。本年度の病院目標の一つに逆紹介率40%を掲げていますが、現在の逆紹介率は30%後半となっています。今後は病院の目標を上回るように、各医師に指示をしていきたいと思っています。本日は各委員のお立場から忌憚のないご意見を頂きたく、宜しくお願いいたします。

2. 議事

(1) 未熟児(NICU・GCU)、入院患者数について(資料・グラフにより説明) * 齊藤医事課長

小児科は常勤医師4名体制となっており、月平均400名~500名程度、年間で5,000名を超える入院患者数を受け入れています。年々の少子化の影響からか、患者数は減少を続けており、2018年度については1日平均約14名という結果となっています。

(2) 救急受入れ状況について(資料・グラフにより説明) * 齊藤医事課長

専門外を除き、断らない医療を行うため、日々診療を続けています。資料のとおり月100以上の受け入れを行っていますが、全体的な傾向としては年々減少傾向がここ数年見受けられる状況となっています。

(3) 地域連携状況について(資料・グラフにより説明) * 齊藤医事課長

平成30年度については、6,570名の紹介を近隣クリニックよりいただいでいまして、紹介率は52.9%です。一方逆紹介率に関しては、4,845名、34.2%と、共に前年度を上回っています。また、紹介元の地域別推移については、最も多い相模原市が77.5%、次いで隣接する町田市が8.6%となっています。疾患別では内科、歯科口腔外科と続いています。今後も病病、病診連携の強化をより進めていきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。

(4) 地域連携セミナー及び市民公開講座について ＊菊池事務部長

地域連携セミナーは、地域の医療従事者向けに年3回開催しているものです。参加者数は大きく増減して毎回読めないです。ただ、広報の仕方は参加者が多い時もあるので、問題ないかと考えています。

市民公開講座は、市民向けに春と秋の年2回開催しています。開催を始めて6年が経ち、近くの皆さんに覚えていただけたのか、参加人数はだいぶ安定してきました。こちらも演題により参加人数が大きく変わるので、演題選定には注意をしていきたいと考えています。広報については、今まで自治会の回覧板にチラシを入れていただいていたのですが、今後は各自治連合会で作成している地域情報誌に掲載・告知をして、状況を見ていきたいと考えています。

(5) 訪問看護ステーションの状況について(資料・グラフにより説明) ＊石川訪問看護ステーション所長

訪問看護ステーションは2016年10月に開設され、訪問看護利用者数は徐々に増えてきています。医療保険と介護保険での訪問看護ですが、医療保険の利用者数は全体の10%に満たない現状です。新規の利用者数は年平均4-5名ですが、こちらも介護保険の利用者が多くなっています。終了者の訪問期間を見ると、1ヶ月以内から3ヶ月以内が多く、終了時の状況としては、病院へ搬送して亡くられる方が最も多くなっています。当院ではまだ24時間訪問をしていないため、在宅での看取りは3件となっております。介護保険の利用者では、独居が難しくなり施設に入所して終了となることが多い状況です。疾患別では、病院の附属というところで、悪性腫瘍や呼吸器疾患で在宅酸素を利用されている利用者が多くなっています。

→(鈴木保健所長) 資料に相模野病院以外の「指示書別医療機関数」というのがありますが、その下にある「訪問看護述べ件数」は相模野病院からの指示も含めた件数になりますか？

→(石川所長) 述べ件数は当院からも含み、当ステーションを利用されている全体の数になります。

→(鈴木保健所長) 何割くらいが、相模野病院から指示された患者さんになりますか？

→(石川所長) ほぼ8割が当院の患者さんになります。

(6) 特定行為研修の現状について(プレゼン資料により説明) ＊横井看護部長

2015年10月より始まった特定行為研修ですが、当院でも、現在5名の看護師が研修を受けています。この研修に参加している看護師が、特定行為だけでなく、知識・技術を身につけることによって周囲の看護師の教育・基礎力を上げていくというところでも尽力してほしいと考えています。1996年より始まっている認定看護師制度により全国で活躍して認定看護師が、特定行為研修を受けることにより認定特定看護師となる新たな動きもあります。当院でも、認定看護師7名の中の1名が特定行為研修を受けており、認定特定看護師第1号になる予定です。特定行為研修、特定認定看護師など、JCHOが目指す地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域のニーズに応えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

→(野田院長) 知識を豊富に持ち、医師を助ける役割を持つ認定看護師、それプラス医師の指示の下に医療行為が出来る特定の技術的なものを持つ特定看護師は、厚労省が推進している医師の働き方改革に基づく一つの方針となっています。また、まだこれから構築されていくものに、看護師独自の判断で医療行為が出来るプラクティスナースというものもあります。これから先、市民が市民を助けていく地域包括ケアシステムのなかでは、医師の力だけでなく看護師の力によっても、住民の方々が安心して過ごせるような医療を提供していく、その一端を担うため当院の看護部も動いています。

(7) その他 ～各委員より～

* 高倉患者代表

紹介率・逆紹介率で平成30年度が増えているのは、病診連携がうまくいっているからかと思います。これが訪問看護等にも結びついてくるのではないのでしょうか。これからも地域のクリニック・地域の方とうまくコミュニケーションをとっていただきたいと思います。

* 小野市民代表

初めて参加させていただいていますが、皆さんの取り組みを十分理解して、市民に広く伝えていきたいと思います。

* 小松副消防局長

2019年上半期の救急件数は18,319件で、過去最多の救急件数を数えた昨年同時期と比べて150件増、年間では38,000件を超え、過去最多を更新すると思われます。そのなか、相模野病院には昨年1,441名、本年上半期においては611名の搬送を受け入れていただいています。また、毎年救急隊員の病院研修においてとても丁寧に指導いただき、医療関係者の方々と顔の見える関係が構築出来て、大変有意義な研修となっています。今回は9月19日に2名の救急隊員の研修も受け入れていただく予定です。引き続きよろしくお願いいたします。

* 山下薬剤師会副会長

病院のいろいろな取り組みの中で、市民向けの講座や医療関係者向けの講座があり、面白いと感じました。薬剤師会でも年に2回市民向けの講座をやっていますが、難しいのは周知の方法です。また、医療関係者向けのものは、薬剤師会のメルマガ等も使えますので、よろしかったらお知らせください。

* 土屋病院協会長

救急台数がこのところ年々増加している割には、当院もそうですが、救急車の台数は減っています。病院別の傾向があるのか、科別の差が出ているのか教えていただきたい。我々はどうのように努力すればよいのか。また、少子高齢化によりお産が減少していますが、今後相模原市がどう発展していくかにより変わってきますが、少子化はやはり進むのかなど。また、跡地利用で若い世代をと市長も言っていましたので、期待したいと思います。

→（小松副消防局長）救急を取り巻く環境はやはり高齢者が非常に多くなっています。救急の病院選定に関しては、救急隊が直接病院へ受け入れの確認をしていますが、救急隊が選ぶというより、当番病院や受け入れ先の科目等で判断しています。

* 細田医師会長

6月24日に新しく医師会長を拝任いたしました。本日はよいデータを拝見しました。専門のナースが出てくることにより、働き方改革を含めて、医療が分担できることは非常に良い事かと思えます。分野がたくさんあり、地域や病院内など今後分化していくのかなと思えます。医師会、市役所でも地域の少子高齢化をみて、地域医療構想も視野に入れて考えると、やはり高齢者の問題が一番大きいと思えます。この急患の中にも高齢者急患がかなりの割合になっていますし、蘇生をするのかしないのかははっきりしないなどいろいろ問題があります。今後、地域の方々に考えていただく啓発の機会を設けていきたいと考えています。逆に病院の方からも地域の先生方にこうしてほしい、病院の現状はこうだというようなお話をうかがえるとありがたい。そのすりあわせの上で地域の連携がうまくいき、地域医療がうまく前に進んでいくと考えています。

* 鈴木保健所長

この地域連絡協議会は9回目を迎えましたが、第1回目から出席させていただいています。地域の医療機関との関わり、救急の受け入れなど熱心に取り組まれているのがわかりますが、質の高い内容に取り組まれているし、職員の意識が非常に高いと感心します。引き続き、相模野病院の特徴を生かし、地域にいい医療を提供していただけるとありがたい。また、地域医療機能推進機構という法人全体との連携もうまくいっているの、これも最大限に生かしていただきたいと思えます。

* 網本福祉部長

相模野病院には相模原だけでなく大和・海老名を含めた周産期のブロックの中核病院としてお世話になっています。たくさん課題があるが、九都県市というところで、高齢者救急や働き方改革に係わる要望をだしていきたいと考えています。1階のエレベーターホールに働き方改革に関する張り紙があり周知しているようですが、逆に市役所にも参考になるかなと読ませていただきました。相模原市については、市長が代わったことで大きく行政が変わることはありませんが、少し考え方に影響があるかもしれません。市長はSDGsなどいろんな分野で相模原は日本一を目指したい、

若い人に選んでいただく市になりたいと言っており、その大きな一つに医療、特に周産期の分野が係わってくるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

* 山口大野北地区自治会連合会長

市民の方に講演させていただく機会がありますが、そこで市民の方から、すぐに紹介する医者はやぶ医者だという話があります。それに対して私は、紹介してくれる医者は多くの医者とやり取りができる幅がある人で、専門外にあやふやに答えるのではなく多く紹介する医者は度量が大きい。すぐに紹介してくれる病院はいい病院だと答えているのですが、それでよいでしょうか。

→(野田院長) 家庭医になる医者は、病院で専門的な治療をしている医者以上に高レベルな幅広い知識を持っており、その幅広い知識で患者さんを診て、どんな疾患が疑われ専門医の精査や入院・手術が必要なのではと、病院へ送っています。また、当院にいらした患者さんが、落ち着いても大きいところの方がよいからと元の先生の下へ戻らないという場合があります。家庭医のよさを説明し、うまく戻っていただきたいと思います。

* 牛尾中央地区自治会連合会長

地域連携の講座を開いていただき、ありがとうございます。広報のチラシが大変とのことでしたが、地域情報誌だと一気に回覧が出来、無料です。ぜひ使って下さい。中央地区には JAXA があり、5 年前から子どもと大人の宇宙教室を開いています。去年は「地球・生命・環境」がテーマで、生命については、相模野病院の吉田先生に講演いただきました。わかりやすく、子どもの心に届く講演をありがとうございました。

3. 閉会あいさつ 野田院長

地域包括ケアの中では在宅医療も望まれています。当院では訪問看護ステーションを 24 時間対応可能とすべく、看護部で体制を整えています。広報としては、ホームページを順次手直しています。土屋先生のお話にもあったよう当院でも救急件数が伸びません。JCHO 全体の今年度の目標にも「救急応需率を上げる」とあり、当院でも去年は 80%を超え、今年度も 90%くらい受け入れています。診療科が限られており、救急隊が相談しにくい病院のひとつかと思いますが、要請いただいたものは極力受けさせていただきたいとおもっています。

事務連絡 * 菊地事務部長

- ・本日の議事概要(ご芳名含む)は前回同様に病院ホームページに掲載いたします。
- ・本協議会は定例会議で年 2 回7月と2月の第3木曜日の開催となっています。

今回は 2020 年 2 月 20 日、次々回は 2020 年 7 月 16 日となりますので、スケジュールの確認をよろしくお願いいたします。